

学位論文に係る評価にあたっての基準

学位授与にあたっては、各専攻が定めるディプロマ・ポリシーで示す能力を身に付け、修了に必要な在学年限、単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士前期課程においては、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格すること、博士後期課程においては博士論文の審査および最終試験に合格する必要があります。

修士論文、特定の課題についての研究の成果および博士論文（以下「学位論文等」という。）の審査にあたっては、以下の審査体制、基準に基づき評価を行います。

博士前期課程

【審査体制】

- ・申請者の主任指導教員を含む研究科担当の教授、准教授及び講師の中から選出された3名以上（うち1名は教授）により、審査委員会を組織します。
- ・加えて、必要があるときは、研究科担当の教授、准教授及び講師以外の教員や、他の大学院の教員等を審査委員とする場合もあります。

【評価基準】

学域	専攻	学位論文等に係る評価にあたっての基準
応用生物学域	応用生物学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の意義 研究課題に学術的または社会的な十分な意義があり、独創性が認められること。 2. 研究課題の明確性 先行研究が十分に検討され、研究課題の位置付けが明確であること。 3. 研究方法の妥当性 研究方法が適切であること。 4. 結論の妥当性 結論を導く過程が明確かつ論理的であること。 5. 論文の体裁 論文体裁が妥当であり、適切な引用を行なっていること。
物質・材料科学域	材料創製化学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の意義や目的が明確に述べられていること。 2. 研究の背景と位置づけが明らかにされており、研究テーマの新規性・独創性があること。 3. 科学的に適切な方法で研究が行われていること。 4. 得られた研究結果の解釈および考察が論理的であり、研究結果と首尾一貫した結論が得られていること。 5. 学位論文の体裁や形式が適切であり、先行研究の調査、および関連する文献の引用が充分に行われていること。 6. 学位論文にたいする研究発表が適切に行われ、質問に的確に答えられる学術的知識が備わっていること。
	材料制御化学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・学術的な内容であること。 ・新規な内容を含むこと。 ・理論・実験・シミュレーション等が適切に行われていること。 ・合理的な考察・結論がなされていること。 ・独創性・応用的価値の有無。 ・申請者の専門的知識・研究推進能力・説明能力が十分であること。

物質・材料科学域	物質合成化学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の意義や目的が明確であること。 2. 研究の背景と位置づけが明らかにされており、先行研究の調査および関連文献の引用が適切に行われていること。 3. 研究内容に学術的な新規性・独創性が認められること。 4. 研究が科学的に適切な方法で行われていること。 5. 研究結果の解釈および考察が論理的であり、研究に首尾一貫性が認められること。 6. 学位論文の体裁や形式が適切であること。 7. 適切なオーサーシップに基づいた学位論文であること。 8. 学位論文に係る口頭発表が適切に行われ、質疑応答に対応できる学術的知識が備わっていること。
	機能物質化学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の意義や目的が明確に述べられていること。 2. 研究の背景と位置づけが明らかにされており、研究テーマの新規性・独創性があること。 3. 科学的に適切な方法で研究が行われていること。 4. 得られた研究結果の解釈および考察が論理的であり、研究結果と首尾一貫した結論が得られていること。 5. 学位論文の体裁や形式が適切であり、先行研究の調査、および関連する文献の引用が充分に行われていること。 6. 学位論文にたいする研究発表が適切に行われ、質問に的確に答えられる学術的知識が備わっていること。
設計工学域	電子システム工学専攻	<p>(評価項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の新規性 先行研究の調査により研究の位置づけおよび新規性が明確に述べられているか。 2. 研究の有意性 研究テーマが学術的または社会的に十分な意義を有すると認められるか。 3. 研究方法の妥当性 理論、実験、シミュレーション、試作、調査などの研究方法が適切であるか。 4. 結論の妥当性 研究結果の解釈および結論が明確で論理的であるか。 5. 論文の体裁 語法、文章表現、体裁が適切であるか。 6. 基礎知識 研究に関連した学問的知識を有しているか。 7. 発表能力 研究発表の能力は十分であるか。また、質問を正確に理解し的確な回答ができるか。 <p>(評価基準)</p> <p>上記1～7の評価項目すべてについて、修士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。</p>

設計 工 学 域	情報工学専攻	<p>修士論文の審査にあたっては、学位論文の専門性を次の観点に基づき評価する。なお、研究分野ごとの特殊性についても考慮する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定と意義 研究課題が明確に定義されており、それが学術的または工学的に十分な意義を有すると認められること。 2. 研究の位置付けの明確さ 先行研究の十分な調査と文献引用により研究の位置付けが明確になされていること。 3. 研究方法の妥当性 研究の方法が研究の目的に対して適切であること。 4. 結論の妥当性と意義 研究の結論を導く過程が明確かつ論理的であること。また、学術的または工学的な有用性が示されていること。 5. 論文の体裁 語法、文章表現、体裁、引用が適切であること。学位論文として不適切な表現や表記がないこと。 6. 基礎知識 研究に関連した高度な学問的知識を有していること。 7. 発表能力 研究内容を簡潔明瞭に説明できること。また、質問を正確に理解し的確な回答ができること。
	機械物理学専攻	<p>次の事項を全て満たしていること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定と意義 研究課題が明確に定義されており、工学上の意義を有すると認められること。 2. 研究の位置付けの明確さ 先行研究の調査と文献引用により研究の位置付けが明確になされていること。 3. 研究方法の妥当性 研究の方法が研究の目的に対して適切であること。 4. 結論の妥当性と意義 研究の結論を導く過程が明確かつ論理的であること。また、工学上の新しい知見が示されていること。 5. 論文の体裁 語法、文章表現、体裁、引用が適切であること。学位論文として不適切な表現や表記がないこと。 6. 基礎知識 研究に関連した学問的知識を有していること。 7. 発表能力 研究内容を簡潔明瞭に説明できること。また、質問を正確に理解し的確な回答ができること。

設計工学域	機械設計学専攻	<p>次の事項を全て満たしていること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定と意義 研究課題が明確に定義されており、工学上の意義を有すると認められること。 2. 研究の位置付けの明確さ 先行研究の調査と文献引用により研究の位置付けが明確になされていること。 3. 研究方法の妥当性 研究の方法が研究の目的に対して適切であること。 4. 結論の妥当性と意義 研究の結論を導く過程が明確かつ論理的であること。また、工学上の新しい知見が示されていること。 5. 論文の体裁 語法、文章表現、体裁、引用が適切であること。学位論文として不適切な表現や表記がないこと。 6. 基礎知識 研究に関連した学問的知識を有していること。 7. 発表能力 研究内容を簡潔明瞭に説明できること。また、質問を正確に理解し的確な回答ができること。
デザイン科学域	デザイン学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文 下記1～6の評価項目すべてについて、修士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。ただし、多様性には柔軟に対応する。 1. 研究内容の独創性と創造性 2. 課題設定の社会性と明確さ 3. 研究方法の妥当性 4. 論述形式の妥当性 5. 結論の妥当性と意義 6. 研究発表の能力 ・特定の課題についての研究の成果 下記1～4の評価項目すべてについて、修士学位制作として水準に達していると認められるものを合格とする。ただし、多様性には柔軟に対応する。 1. 作品内容の独創性と創造性 2. 課題設定の社会性と明確さ 3. 提案の妥当性と意義 4. 提案発表の能力
	建築学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の観点で優れていると認められること。 1. 研究テーマの着眼点と意義 2. 研究方法・手段の有効性と論理整合性 3. 研究結果の独創性と普遍性 4. 研究発表・表現の明快さと訴求力

	京都工芸繊維大学・ チェンマイ大学 国際連携建築学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文および特定の課題についての研究の成果 1. 研究・制作の意義・位置付けが明確に示されている 2. 研究・制作の方法・手法が適切である 3. 研究・制作としての体裁・構成が適切である 4. 英語でプレゼンテーションする
デザイン 科学域	先端ファイブ科学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文及び特定の課題について、以下の各項を満たしていることをもって合格とする。 1. 研究内容に新規性、独創性が認められること。 2. 研究内容について先行研究の調査が十分行われ、文献の引用が適切に行われていること。 3. 研究結果が適正であり、結果の考察が論理的かつ的確に行われていること。 4. 研究結果および結論は、将来社会に貢献できる価値を持っていること。 5. 研究倫理に反するような行為が認められないこと。 6. 特定の課題については課題の成果が学術的かつ社会的に十分な意義を有すると認めらること。
繊維 学域	バイオベースマテリアル学専攻	<p>(評価項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 研究の新規性 研究の位置づけおよび新規性が明確になされていること。 2. 研究の有意性 学術的に十分な意義を有すると認められること。 3. 研究方法の妥当性 理論の構築と実験およびシミュレーションなどの方法が妥当であること。 4. 結論の妥当性 研究結果の解釈および結論が明確で論理的であること。 5. 論文の体裁 語法、文章表現、体裁が適切であること。無断引用や学位論文として不適切な表現がないこと。 6. 専門知識 研究に関連した高度な専門知識を有していること。 7. 最終試験の評価項目 発表が論理的且つ明確であること。質疑に対する応答が的確であること。 <p>(評価基準)</p> <p>上記 1～7 の評価項目すべてについて、修士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。</p>

博士後期課程

【審査体制】

・申請者の主任指導教員を含む研究科担当の教授及び准教授の中から選出された3名（うち半数以上は教授）により、審査委員会を組織します。

・加えて、必要があるときは、研究科担当の教授及び教授以外の教員や、他の大学院の教員等を2名まで審査委員とする場合もあります。

【評価基準】

学域	専攻	学位論文等に係る評価にあたっての基準
応用生物学域	バイオテクノロジー専攻	<ol style="list-style-type: none">1. 研究課題の意義 研究課題に学術的または社会的な十分な意義があり、独創性が認められること。2. 研究課題の明確性 先行研究が十分に検討され、研究課題の位置付けが明確であること。3. 研究方法の妥当性 研究方法が適切であること。4. 結論の妥当性 結論を導く過程が明確かつ論理的であること。5. 論文の体裁 論文体裁が妥当であり、適切な引用を行なっていること。 <p>上記1～5の評価項目すべてについて、博士学位論文としての水準に達していると認められ、かつ、以下の要件を満たすものを合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 課程博士 審査制度が確立した雑誌に2報以上、そのうち1報は筆頭著者であること。○ 論文博士 審査制度が確立した雑誌に4報以上、そのうち2報は筆頭著者であること。
物質・材料科学域	物質・材料化学専攻	<ol style="list-style-type: none">1. 研究の意義や目的が明確であること。2. 研究の背景と位置づけが明確に示されており、先行研究の調査および関連文献の引用が適切に行われていること。3. 研究内容に学術的な新規性・独創性が認められること。4. 研究結果の解釈および考察が論理的であること。5. 適切なオーサーシップに基づいた学位論文であること。6. 学位論文に係る口頭発表が適切に行われ、質疑応答に対応できる学術的知識が備わっていること。

設計 工 学 域	電子システム工学専攻	<p>(評価項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の新規性 先行研究の十分な調査により、研究の位置づけおよび新規性が明確になされているか。 2. 研究の有意性 研究テーマが学術的または社会的に十分な意義を有すると認められるか。 3. 研究方法の妥当性 理論、実験、シミュレーション、試作、調査などの研究方法が適切であるか。 4. 結論の妥当性 研究結果の解釈および結論が明確で論理的であるか。 5. 論文の体裁 語法、文章表現、体裁が適切であるか。 6. 基礎知識 研究に関連した高度な学問知識を有しているか。 7. 発表能力 研究発表の能力は十分であるか。また、質問を正確に理解し、的確な回答ができるか。 <p>(評価基準)</p> <p>上記 1～7 の評価項目すべてについて、博士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。</p>
	設計工学専攻	<p>博士論文の審査にあたっては、学位論文の卓越した専門性を次の観点に基づき評価する。なお、研究分野ごとの特殊性についても考慮する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定と意義 研究課題が明確に定義されており、それが学術的または工学的に十分な意義を有すると認められること。 2. 研究の位置付けの明確さ 先行研究の十分な調査と文献引用により研究の位置付けが明確になされていること。 3. 研究方法の妥当性 研究の方法が研究の目的に対して適切であること。 4. 結論の妥当性と意義 研究の結論を導く過程が明確かつ論理的であること。また、学術的または工学的な有用性が示されていること。 5. 論文の体裁 語法、文章表現、体裁、引用が適切であること。学位論文として不適切な表現や表記がないこと。 6. 基礎知識 研究に関連した高度な学問的知識を有していること。 7. 発表能力 研究内容を簡潔明瞭に説明できること。また、質問を正確に理解し的確な回答ができること。

デザイン科学域	デザイン学専攻	<p>博士論文の審査にあたっては、学位論文の卓越した専門性を次の観点に基づき評価する。なお、研究分野ごとの特殊性についても考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の意義 研究テーマが学術的または社会的に十分な意義を有すると認められるか。また、テーマや研究手法に新規性、独創性が認められるか。 ・先行研究取り扱いの妥当性 先行研究の十分な調査、文献引用により研究の位置づけが明確になされているか。 ・研究方法の妥当性 理論の援用や、自らが行う実験、試作、調査などの研究方法が適切であるか。 ・結論の妥当性と意義 研究結果の解釈および結論を導く過程が明確で論理的であるか。 ・論文の体裁 学位論文として適切な語法や文章表現、また引用表記がなされているか。 ・研究発表能力 研究発表の能力は十分であるか。また、質問に対して的確な回答ができるか。
	建築学専攻	<p>博士論文の審査にあたっては、学位論文の卓越した専門性を次の観点に基づき評価する。なお、研究分野ごとの特殊性についても考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の意義 研究テーマが学術的または社会的に十分な意義を有すると認められるか。また、テーマや研究手法に新規性、独創性が認められるか。 ・先行研究取り扱いの妥当性 先行研究の十分な調査、文献引用により研究の位置づけが明確になされているか。 ・研究方法の妥当性 理論の援用や、自らが行う調査、実験、試作などの研究方法が適切であるか。 ・結論の妥当性と意義 研究結果の解釈および結論を導く過程が明確で論理的であるか。 ・論文の体裁 学位論文として適切な語法や文章表現、また引用表記がなされているか。 ・研究発表能力 研究発表の能力は十分であるか。また、質問に対して的確な回答ができるか。

織 維 学 域	先端ファイブ科学専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマや方法に十分な新規性、独創性が認められること。 2. 先行研究についての調査、引用文献は十分あり、研究の位置付けが明確かつ基礎知識も十分であること。 3. テーマに対する明確かつ適切な研究方法がなされ、得られた結果に対する解釈と考察は、論理的であること。 4. 研究結果および結論は、将来社会に貢献できる価値を持っていること。 5. 博士論文は十分な内容を含み、不適切な表現がないこと。 6. 研究発表能力が十分あり、質疑応答が的確にできること。
	バイオベースマテリアル学専攻	<p>(評価項目)</p> <p>権威ある学術誌に複数の基礎論文が掲載されている、あるいは掲載が決定されていること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の新規性 研究の位置づけおよび新規性が明確になされていること。 2. 研究の有意性 学術的に十分な意義を有すると認められること。 3. 研究方法の妥当性 理論の構築と実験およびシミュレーションなどの方法が妥当であること。 4. 結論の妥当性 研究結果の解釈および結論が明確で論理的であること。 5. 論文の体裁 語法、文章表現、体裁が適切であること。無断引用や学位論文として不適切な表現がないこと。 6. 専門知識 研究に関連した高度な専門知識を有していること。 7. 最終試験の評価項目 発表が論理的且つ明確であること。質疑に対する応答が的確であること。 <p>(評価基準)</p> <p>上記 1～7 の評価項目すべてについて、博士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。</p>